



グローバル・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)

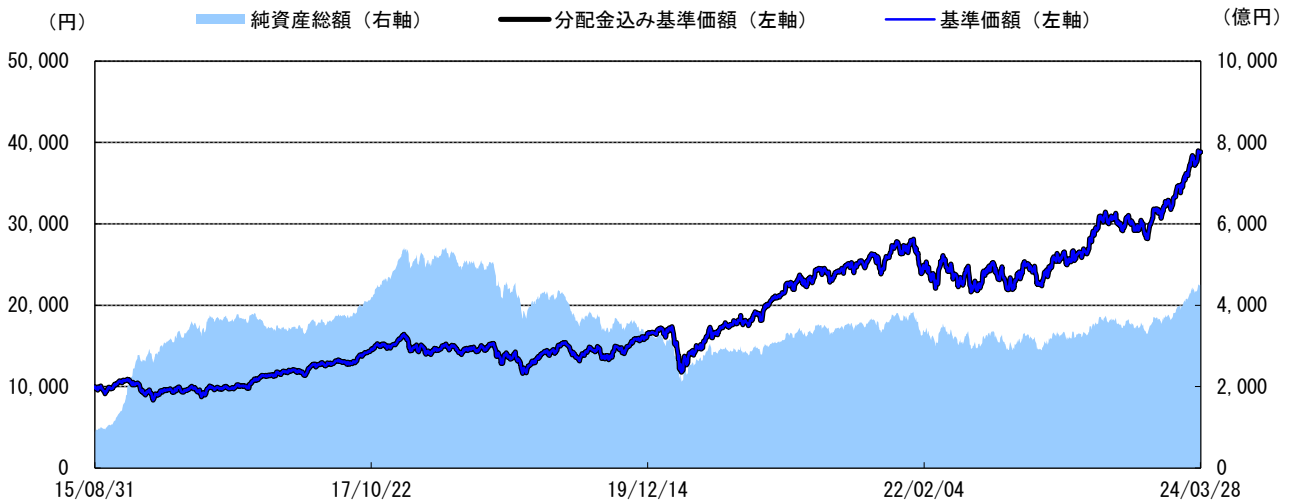


設定日：2015年8月31日 償還日：無期限 決算日：原則、毎年7月20日
 収益分配：決算日毎 基準価額：38,870円 純資産総額：4,507.53億円

※当レポートでは基準価額および分配金を1万口当たりで表示しています。
 ※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。
 ※当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

運用実績

<基準価額の推移>



※分配金込み基準価額の推移は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものととして計算した理論上のものである点にご留意ください。
 ※基準価額は、信託報酬（後述の「手数料等の概要」参照）控除後の値です。

<基準価額の騰落率>

1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
4.50%	18.41%	30.82%	46.01%	65.39%	288.70%

※基準価額の騰落率は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものととして計算した理論上のものである点にご留意ください。

<分配金実績（税引前）>

分配金合計	19・7・22	20・7・20	21・7・20	22・7・20	23・7・20
0円	0円	0円	0円	0円	0円

※分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。

<基準価額騰落の要因分解>

前月末基準価額		37,196円	
当月お支払いした分配金		0円	
要	株式	1,711円	為替 21円
	米国	1,100円	アメリカドル 80円
	日本	365円	ユーロ 1円
	欧州	57円	その他通貨 -60円
	その他株式	189円	
因	その他	-59円	
	小計	1,674円	
当月末基準価額		38,870円	

※欧州には、ユーロ圏の他、英国とスイスが含まれます。
 ※要因分解は、概算値であり実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。
 あくまで傾向を知るための参考値としてご覧ください。

<資産構成比>

株式	95.6%
うち先物	0.0%
現金その他	4.4%

※「資産構成比」は、マザーファンドの投資状況を反映した実質の組入比率で、純資産総額比です。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

ポートフォリオの内容

※下記データは全てマザーファンドの状況で、組入株式時価総額比です。

※「組入上位10銘柄」は、個別銘柄の取引を推奨するものでも、将来の組入れを保証するものでもありません。

※組入上位10銘柄の概要は、後述をご参照ください。

＜業種別構成比＞

業種別構成比		詳細（産業別構成比）	
エネルギー	0.0%	エネルギー	0.0%
素材	0.0%	素材	0.0%
資本財・サービス	30.3%	資本財	30.3%
		商業・専門サービス	0.0%
		運輸	0.0%
一般消費財・サービス	4.1%	自動車・自動車部品	1.5%
		耐久消費財・アパレル	1.1%
		消費者サービス	0.0%
		一般消費財・サービス流通・小売り	1.4%
生活必需品	0.0%	生活必需品流通・小売り	0.0%
		食品・飲料・タバコ	0.0%
		家庭用品・パーソナル用品	0.0%
ヘルスケア	10.3%	ヘルスケア機器・サービス	5.9%
		医薬品・バイオテクノロジー	4.4%
金融	0.0%	銀行	0.0%
		金融サービス	0.0%
		保険	0.0%
情報技術	52.9%	ソフトウェア・サービス	12.3%
		テクノロジー・ハードウェア	12.4%
		半導体・半導体製造装置	28.2%
コミュニケーション・サービス	2.3%	電気通信サービス	0.0%
		メディア・娯楽	2.3%
公益事業	0.0%	公益事業	0.0%
不動産	0.0%	エクイティ不動産投資信託	0.0%
		不動産管理・開発	0.0%

＜組入上位10通貨＞

アメリカドル	53.0%
日本円	27.0%
ユーロ	9.6%
新台幣ドル	4.5%
スイスフラン	2.4%
スウェーデンクローナ	2.3%
ノルウェークローネ	1.2%

＜組入上位10カ国＞

アメリカ	49.6%
日本	27.0%
ドイツ	4.9%
フランス	3.3%
オランダ	2.6%
台湾	2.6%
スイス	2.4%
スウェーデン	2.3%
アイルランド	2.2%
ケイマン諸島	1.9%

＜規模別構成比率＞

時価総額	比率
超大型株（500億米ドル以上）	58.7%
大型株（100億米ドル以上500億米ドル未満）	31.3%
中型株（20億米ドル以上100億米ドル未満）	9.1%
小型株（20億米ドル未満）	0.8%

＜組入上位10銘柄＞（組入銘柄数：56銘柄）

	銘柄	国名	業種	比率
1	NVIDIA CORP / エヌビディア	アメリカ	情報技術	3.8%
2	INTUITIVE SURGICAL INC / インテューイティブ・サージカル	アメリカ	ヘルスケア	3.6%
3	キーエンス / -	日本	情報技術	3.2%
4	MICROSOFT CORP / マイクロソフト	アメリカ	情報技術	3.2%
5	ROCKWELL AUTOMATION INC / ロックウェル・オートメーション	アメリカ	資本財・サービス	3.1%
6	SMC / -	日本	資本財・サービス	3.0%
7	SIEMENS AG-REG / シーメンス	ドイツ	資本財・サービス	3.0%
8	ディスコ / -	日本	情報技術	2.8%
9	TAIWAN SEMICONDUCTOR MANUFAC / 台湾セミコンダクター・マニュファクチャリング・カンパニー	台湾	情報技術	2.6%
10	日立製作所 / -	日本	資本財・サービス	2.6%

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

運用コメント

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

◎市場環境

米国株式市場は、前月末と比べて上昇しました。米国の製造業と非製造業のISM景況指数が市場予想を下回ったことや、米国の消費者物価指数（CPI）が市場予想を上回ったことなどが株価の重しとなったものの、生成人工知能（AI）関連への投資の広がりに対する期待や、米国連邦公開市場委員会（FOMC）後の記者会見で米国連邦準備制度理事会（FRB）議長が量的引き締め（QT）を近く減速する方針を示したことなどから、株価は上昇しました。

欧州株式市場は、前月末と比べて総じて上昇しました。ユーロ圏やドイツの小売売上高、製造業購買担当者景気指数（PMI）速報値が市場予想を下回ったことなどが株価の重しとなったものの、ドイツや英国のCPIが市場予想を下回ったことや、欧州中央銀行（ECB）が政策金利を据え置いたものの物価見通しを引き下げたこと、イングランド銀行（BOE）総裁が利下げの可能性を示唆したことなどが支援材料となり、株価は総じて上昇しました。

3月の国内株式市場は、東証株価指数（TOPIX）が前月末比プラス3.47%の上昇となりました。前半は、日銀が近い時期にマイナス金利政策を解除するとの観測が強まったことなどから株価は下落しました。後半は、日銀が金融政策決定会合においてマイナス金利政策の解除や上場投資信託（ETF）の買い入れ終了などを決定しましたが、日銀総裁の記者会見での発言などから緩和的な金融環境が当面続くとの見方が広がったことや、FRB議長の会見での発言を受けて、FRBの年内の利下げが想定通り行われると期待されたことなどから、国内株式市場は上昇しました。

◎運用概況

3月の株式市場は、景気後退懸念が薄らいだことに加え、金融政策に対してもハト派的なトーンへのシフトがみられたことなどから主要市場は軒並み上昇しました。当戦略は設備投資の回復を意識しつつも、景気がスローダウンしてもダウンサイドの抑制が期待できる強固な財務体質を持つと見込まれる企業を中心に投資を継続しています。セクター別では情報技術セクターと資本財・サービスセクターの組入れを高水準で維持しています。

◎今後の見通し

米国の3月のISM製造業景況指数は2022年秋以来の50超えとなり、非製造業指数次第ではインフレ再燃が意識される展開も予想されます。また、利下げ回数のコンセンサスも3～4回から2～3回に減少しており、高金利が長期間維持されることが及ぼす様々な影響には注意が必要です。

エヌビディアの年次開発者会議を受け、さらなる生成AIの開発とその活用に対する期待が高まっているようです。今後は生成AI関連技術が、半導体産業以外にも波及することが注目されると見込まれます。生成AIを活用した技術が多様な産業の生産性を向上させ、先進国の人手不足を解消する有効な技術となるのか、生成AIのようなソフトウェア技術と既存の産業ロボットや物流自動化機器のようなハードウェア技術の融合により、中長期的に自動化領域がどの程度拡大していくのかにも注目しています。

ロボティクスにとって、一層のデータ活用、サプライチェーン見直し、賃金インフレなどの動きは自動化・自律化の追い風になるとみられます。生成AIのようなソフトウェア技術と人型ロボットのような新たなハードウェア技術が融合すれば、さらに幅広い分野で自動化が進む可能性があるかとみています。多くの技術が社会課題の解決に活用される可能性を秘めており、中長期的にロボティクス関連銘柄の魅力は非常に高いと考えます。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

※「組入上位10銘柄の銘柄概要」は、個別銘柄の取引を推奨するものでも、将来の組入れを保証するものでもありません。
 ※記載の見解等は、ラザード社による作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

<ご参考：組入上位10銘柄の銘柄概要>

1 NVIDIA CORP/エヌビディア
米国の半導体メーカー。コンピュータのグラフィックス処理や演算処理の高速化を実現するGPU（グラフィックス・プロセッシング・ユニット）を開発、販売する。自動運転技術やデータセンターの高機能化の要となるAI半導体に注力。
2 INTUITIVE SURGICAL INC/インテューイティブ・サージカル
ロボット手術システムメーカーの世界最大手。主力の外科手術ロボット「da Vinci」は患者の負担が少ない低侵襲手術を実現する。各国でロボット手術の保険適用の拡大が進みつつある。
3 キーエンス
FA（ファクトリーオートメーション）向けセンサーを主力とするメーカー。ロボティクス分野の多くの場面で重要な役割を果たすセンサーをコンサルティング営業で提供する。
4 MICROSOFT CORP/マイクロソフト
OS「Windows」、アプリケーション「オフィス」やクラウドサービス「Azure」などの製品を販売する世界有数のテクノロジー企業。生産性を根本的に加速させるために生成AIを組み込んだツールやサービスの提供に注力。
5 ROCKWELL AUTOMATION INC/ロックウェル・オートメーション
FA（ファクトリーオートメーション）分野において機器だけでなくソフトウェア、システム、セキュリティ等のソリューションをトータルで提供する。幅広いエンドユーザー（最終顧客）を持ち、様々な分野でのオートメーション化の進展をカバーする。
6 SMC
自動制御機器の総合メーカー。国内外で販売シェアトップを誇る空気圧機器は、ロボットをはじめとし、FA（ファクトリーオートメーション）や、医療機器、半導体製造装置における自動検査装置等、様々な産業機器の自動化に使用されている。
7 SIEMENS AG-REG/シーメンス
ドイツに本拠を置くテクノロジー会社で、主に製造業、インフラ、輸送、ヘルスケアなどの分野において、リアルとデジタルを融合したソリューションを提供。新たな動きとして、モノづくりに生成AIを導入する取り組みを促進。
8 ディスコ
半導体製造装置（精密加工装置）メーカー。「切る・削る・磨く」に特化、ウェハ製造工程・半導体製造前工程・後工程向けの半導体製造装置（切断・加工装置、研削・研磨装置）や周辺装置、精密加工ツールを製造、販売する。
9 TAIWAN SEMICONDUCTOR MANUFAC/台湾セミコンダクター・マニュファクチャリング・カンパニー
世界最大級の半導体メーカー。世界各国で高性能コンピューター、スマートフォン、IoT、自動車、デジタル家電など幅広い製品に半導体を提供。半導体業界において初めて専業ファウンドリー（受託製造）ビジネスを確立。
10 日立製作所
世界有数の総合電機メーカー。「デジタル」「グリーン」「イノベーション」の3つを成長の柱として、ITサービスやDXソリューション、エネルギーソリューション、鉄道システム、ロボティクスSI等、幅広く事業を展開。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

モーニングスター社※（現：ウエルスアドバイザー株式会社）の選定により、下記を受賞しました。

Morningstar Award “Fund of the Year 2019” 国際株式型（グローバル）部門 優秀ファンド賞



Morningstar Award “Fund of the Year 2019” は国内追加型株式投資信託を選考対象として、モーニングスター※（現：ウエルスアドバイザー株式会社）独自の定量分析、定性分析に基づき、2019年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスター※（現：ウエルスアドバイザー株式会社）が判断したものです。国際株式型（グローバル）部門は、2019年12月末において当該部門に属するファンド546本の中から選考されました。

当賞は過去の情報に基づくものであり、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。また、モーニングスター※（現：ウエルスアドバイザー株式会社）が信頼できると判断したデータにより評価しましたが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。著作権等の知的所有権その他一切の権利はモーニングスター株式会社※（現：ウエルスアドバイザー株式会社）並びにMorningstar, Inc. に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。

※モーニングスター株式会社は2023年3月30日付で、SBIグローバルアセットマネジメント株式会社に社名を変更いたしました。現在、投資情報サービスおよび投信評価事業は同社の子会社であるウエルスアドバイザー株式会社で行っております。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

ファンドの特色

1. 世界各国の株式の中から主にロボティクス関連企業の株式に投資を行ないます。

- ◆今後の成長が期待されるロボティクス関連企業の株式を中心に投資を行なうことにより、中長期的な信託財産の成長をめざします。
- ◆産業用やサービス用などのロボットを製作する企業のみならず、ロボット関連技術であるAI（人工知能）やセンサーなどの開発に携わる企業も投資対象とします。
- ◆外貨建資産への投資にあたっては、原則として為替ヘッジを行ないません。

2. 銘柄選定は、株式のアクティブ運用に注力するラザード社が、徹底した調査に基づき行ないます。

- ◆株式運用に強みを持つ米国の資産運用会社、ラザード・アセット・マネージメント・エルエルシー（ラザード社）が「グローバル・ロボティクス株式マザーファンド」の運用を行ないます。

3. 年1回、決算を行ないます。

- ◆毎年7月20日（休業日の場合は翌営業日）を決算日とします。
- ※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行なわない場合もあります。

※市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

格付投資情報センター（R&I）の選定により、下記を受賞しました。



「R&Iファンド大賞 2023」
投資信託 テクノロジー関連外国株式部門
優秀ファンド賞

「R&Iファンド大賞」は、R&Iが信頼し得ると判断した過去のデータに基づく参考情報（ただし、その正確性及び完全性につきR&Iが保証するものではありません）の提供を目的としており、特定商品の購入、売却、保有を推奨、又は将来のパフォーマンスを保証するものではありません。当大賞は、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定されるその他業務（信用格付業以外の業務であり、かつ、関連業務以外の業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置が法令上要請されています。当大賞に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はR&Iに帰属しており、無断複製・転載等を禁じます。

当賞は、過去3年間を選考期間とし、シャープレシオによるランキングに基づき、最大ドローダウンを加味したうえで選考しています。評価基準日は2023年3月31日です。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

■お申込みメモ

商品分類	追加型投信／内外／株式
購入単位	販売会社が定める単位 ※販売会社の照会先にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
信託期間	無期限(2015年8月31日設定)
決算日	毎年7月20日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
購入・換金申込不可日	販売会社の営業日であっても、購入・換金の申込日がニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行休業日に該当する場合は、購入・換金の申込みの受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
課税関係	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度(NISA)の適用対象です。 ※2024年1月1日以降、公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISAの適用対象となります。当ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象となる予定ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。上記は、2023年8月末現在のもので、税法が改正された場合などには、変更される場合があります。 ※配当控除の適用はありません。 ※益金不算入制度は適用されません。

■手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

<申込時、換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料 購入時の基準価額に対し**3.85%(税抜3.5%)以内**
※購入時手数料は販売会社が定めます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。

換金手数料 ありません。

信託財産留保額 ありません。

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

運用管理費用 (信託報酬) ファンドの日々の純資産総額に対し**年率1.936%(税抜1.76%)**

その他の費用・手数料 目論見書などの作成・交付および計理等の業務に係る費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。

組入有価証券の売買委託手数料、資産を外国で保管する場合の費用、借入金の利息、立替金の利息および貸付有価証券関連報酬(有価証券の貸付を行なった場合は、信託財産の収益となる品賃料に0.55(税抜0.5)を乗じて得た額)などがその都度、信託財産から支払われます。

※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■委託会社、その他関係法人

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社
投資顧問会社	ラザード・アセット・マネージメント・エルエルシー
受託会社	三井住友信託銀行株式会社
販売会社	販売会社については下記にお問い合わせください。 日興アセットマネジメント株式会社 〔ホームページ〕 www.nikkoam.com/ 〔コールセンター〕0120-25-1404(午前9時~午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

■お申込みに際しての留意事項**○リスク情報**

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。

ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様には帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】

- 株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。

【流動性リスク】

- ・市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。

【信用リスク】

- ・投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト（債務不履行）や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

【為替変動リスク】

- ・外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

【有価証券の貸付などにおけるリスク】

- ・有価証券の貸付行為などにおいては、取引相手先リスク（取引の相手方の倒産などにより貸付契約が不履行になったり、契約が解除されたりするリスク）を伴ない、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。貸付契約が不履行や契約解除の事態を受けて、貸付契約に基づく担保金を用いて清算手続きを行なう場合においても、買戻しを行なう際に、市場の時価変動などにより調達コストが担保金を上回る可能性もあり、不足金額をファンドが負担することにより、その結果ファンドに損害が発生する恐れがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

○その他の留意事項

- ・当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- ・当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ・投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- ・分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- ・投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書（交付目論見書）などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

設定・運用は 日興アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第368号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

投資信託説明書(交付目録見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
アイオー信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第230号			
アイザワ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第3283号	○	○	○
株式会社愛知銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第12号	○		
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第67号	○	○	○
株式会社秋田銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第2号	○		
足利小山信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第217号			
株式会社足利銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第43号	○		○
足立成和信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第144号			
尼崎信用金庫	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第39号	○		
株式会社イオン銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第633号	○		
今村証券株式会社	金融商品取引業者	北陸財務局長(金商)第3号	○	○	
岩井コスモ証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第15号	○	○	○
株式会社岩手銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第3号	○		
a u カブコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○	○	○
S M B C 日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○
株式会社 S B I 証券 ※右の他に一般社団法人日本 S T O 協会にも加入	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○
株式会社 S B I 新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社 S B I 証券) (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○
大阪シティ信用金庫	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第47号	○		
大田原信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第219号			
大牟田柳川信用金庫	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第20号			
岡崎信用金庫	登録金融機関	東海財務局長(登金)第30号	○		
岡三証券株式会社 ※右の他に一般社団法人日本暗号資産取引業協会にも加入	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○
岡地証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第5号	○	○	
おかやま信用金庫	登録金融機関	中国財務局長(登金)第19号	○		
おきぎん証券株式会社	金融商品取引業者	沖縄総合事務局(金商)第1号	○		
株式会社沖縄銀行	登録金融機関	沖縄総合事務局(登金)第1号	○		
株式会社香川銀行	登録金融機関	四国財務局長(登金)第7号	○		
香川証券株式会社	金融商品取引業者	四国財務局長(金商)第3号	○		
株式会社鹿児島銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第2号	○		
株式会社鹿児島銀行 (委託金融商品取引業者 九州 F G 証券株式会社)	登録金融機関	九州財務局長(登金)第2号	○		
鹿児島相互信用金庫	登録金融機関	九州財務局長(登金)第26号			
柏崎信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第242号			
金沢信用金庫	登録金融機関	北陸財務局長(登金)第15号	○		
鹿沼相互信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第221号			
蒲郡信用金庫	登録金融機関	東海財務局長(登金)第32号			
観音寺信用金庫	登録金融機関	四国財務局長(登金)第17号			
株式会社関西西みらい銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第7号	○		○
きのくに信用金庫	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第51号			
九州 F G 証券株式会社	金融商品取引業者	九州財務局長(金商)第18号	○		
京都中央信用金庫	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第53号	○		
京都北都信用金庫	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第54号			
株式会社きらぼし銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第53号	○		○
株式会社きらぼし銀行 (委託金融商品取引業者 きらぼしライフデザイン証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第53号	○		○
きらぼしライフデザイン証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第3198号	○		
株式会社きらやか銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第15号	○		
桐生信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第234号			
熊本第一信用金庫	登録金融機関	九州財務局長(登金)第14号			
呉信用金庫	登録金融機関	中国財務局長(登金)第25号			
ぐんぎん証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2938号	○		
株式会社群馬銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第46号	○		○
湖東信用金庫	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第57号			
株式会社佐賀共栄銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第10号	○		
さがみ信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第191号			
佐野信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第223号			
さわやか信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第173号	○		
株式会社三十三銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第16号	○		
三条信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第244号			
J トラストグローバル証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第35号	○		
しずおか焼津信用金庫	登録金融機関	東海財務局長(登金)第38号			
静銀ティーム証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第10号	○		
七十七証券株式会社	金融商品取引業者	東北財務局長(金商)第37号	○		
しのもめ信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第232号			
株式会社証券ジャパン	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第170号	○	○	
株式会社荘内銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第6号	○		
城北信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第147号	○		
株式会社常陽銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第45号	○		○
株式会社常陽銀行 (委託金融商品取引業者 めぶき証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第45号	○		○
白河信用金庫	登録金融機関	東北財務局長(登金)第36号			
新庄信用金庫	登録金融機関	東北財務局長(登金)第37号			
スルガ銀行株式会社	登録金融機関	東海財務局長(登金)第8号	○		
静清信用金庫	登録金融機関	東海財務局長(登金)第43号	○		
西武信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第162号	○		
瀬戸信用金庫	登録金融機関	東海財務局長(登金)第46号	○		
株式会社第四北越銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第47号	○		○
第四北越証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第128号	○		

投資信託説明書(交付目録見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会				
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	
大和証券株式会社 ※右の他に一般社団法人日本STO協会にも加入	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第108号	○	○	○	○
高松信用金庫	登録金融機関	四国財務局長 (登金) 第20号				
玉島信用金庫	登録金融機関	中国財務局長 (登金) 第30号				
株式会社千葉銀行	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第39号	○		○	
株式会社中京銀行	登録金融機関	東海財務局長 (登金) 第17号	○			
東栄信用金庫	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第172号				
東海東京証券株式会社 ※右の他に一般社団法人日本STO協会にも加入	金融商品取引業者	東海財務局長 (金商) 第140号	○	○	○	○
東京東信用金庫	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第179号	○			
株式会社東邦銀行	登録金融機関	東北財務局長 (登金) 第7号	○			
とうほう証券株式会社	金融商品取引業者	東北財務局長 (金商) 第36号	○			
東洋証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第121号	○			○
株式会社徳島大正銀行	登録金融機関	四国財務局長 (登金) 第10号	○			
栃木信用金庫	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第224号				
鳥取信用金庫	登録金融機関	中国財務局長 (登金) 第35号				
株式会社トマト銀行	登録金融機関	中国財務局長 (登金) 第11号	○			
株式会社富山銀行	登録金融機関	北陸財務局長 (登金) 第1号	○			
富山信用金庫	登録金融機関	北陸財務局長 (登金) 第27号				
株式会社富山第一銀行	登録金融機関	北陸財務局長 (登金) 第7号	○			
豊川信用金庫	登録金融機関	東海財務局長 (登金) 第54号				
内藤証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長 (金商) 第24号	○			○
株式会社長崎銀行	登録金融機関	福岡財務支局長 (登金) 第11号	○			
長野信用金庫	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第256号	○			
株式会社名古屋銀行	登録金融機関	東海財務局長 (登金) 第19号	○			
奈良信用金庫	登録金融機関	近畿財務局長 (登金) 第71号	○			
奈良中央信用金庫	登録金融機関	近畿財務局長 (登金) 第72号				
株式会社南都銀行	登録金融機関	近畿財務局長 (登金) 第15号	○			
株式会社西日本シティ銀行	登録金融機関	福岡財務支局長 (登金) 第6号	○			○
西日本シティT T証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長 (金商) 第75号	○			
のと共栄信用金庫	登録金融機関	北陸財務局長 (登金) 第30号				
野村證券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第142号	○	○	○	○
株式会社八十二銀行	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第49号	○		○	
株式会社八十二銀行 (委託金融商品取引業者 八十二証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第49号	○		○	
八十二証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第21号	○	○		
浜銀T T証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第1977号	○			
浜松磐田信用金庫	登録金融機関	東海財務局長 (登金) 第61号				
播州信用金庫	登録金融機関	近畿財務局長 (登金) 第76号	○			
飯能信用金庫	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第203号				
PWM日本証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第50号	○			○
株式会社肥後銀行	登録金融機関	九州財務局長 (登金) 第3号	○			
株式会社肥後銀行 (委託金融商品取引業者 九州FG証券株式会社)	登録金融機関	九州財務局長 (登金) 第3号	○			
姫路信用金庫	登録金融機関	近畿財務局長 (登金) 第80号	○			
百五証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長 (金商) 第134号	○			
平塚信用金庫	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第196号				
ひろぎん証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長 (金商) 第20号	○			
株式会社広島銀行	登録金融機関	中国財務局長 (登金) 第5号	○		○	
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第152号	○	○		
福岡ひびき信用金庫	登録金融機関	福岡財務支局長 (登金) 第24号	○			
富士宮信用金庫	登録金融機関	東海財務局長 (登金) 第65号				
PayPay銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第624号	○		○	
PayPay証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第2883号	○			
碧海信用金庫	登録金融機関	東海財務局長 (登金) 第66号	○			
株式会社北都銀行	登録金融機関	東北財務局長 (登金) 第10号				
北洋証券株式会社	金融商品取引業者	北海道財務局長 (金商) 第1号	○			
株式会社北海道銀行	登録金融機関	北海道財務局長 (登金) 第1号	○		○	
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第165号	○	○	○	○
丸三証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第167号	○			
丸八証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長 (金商) 第20号	○			
三島信用金庫	登録金融機関	東海財務局長 (登金) 第68号				
水島信用金庫	登録金融機関	中国財務局長 (登金) 第48号				
株式会社三井住友銀行	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第54号	○		○	○
三井住友信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第649号	○	○	○	
株式会社三菱UFJ銀行	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第5号	○		○	○
株式会社三菱UFJ銀行 (委託金融商品取引業者 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第5号	○		○	○
三菱UFJ信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第33号	○	○	○	
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第2336号	○	○	○	○
株式会社宮崎太陽銀行	登録金融機関	九州財務局長 (登金) 第10号				
株式会社武蔵野銀行	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第38号	○			
明和證券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第185号	○			
めぶき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第1771号	○			
大和信用金庫	登録金融機関	近畿財務局長 (登金) 第88号	○			
株式会社山梨中央銀行	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第41号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第195号	○	○	○	○
留萌信用金庫	登録金融機関	北海道財務局長 (登金) 第36号				
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長 (金商) 第8号	○			

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。
 ※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。